

# キャンパス散策（山口県立大学）



本学は、昭和16年に山口県立女子専門学校を母体とし幾度の学制改革を経て、平成8年から現在の山口県立大学（男女共学）となりました。個性的で地域に開かれた、未来志向型の魅力ある大学づくりを目指しています。教育の基本理念に「人間性の尊重」、「生活者の視点の重視」、「地域社会との共生」、「国際化への対応」をおき、「学生を大切にする大学」として、学生数1400名強の小規模大学の特徴を生かし“顔が見える関係づくり”をモットーに、学生支援に取り組んでいます。

こうした支援は、平成19年度文部科学省に新設された新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム（学生支援GP）に「総合的人間関係力を涵養する学生支援－大学と地域で作るプレ社会における実践的トレーニング－」というテーマで採択をうけたことで一層充実したものとなり、今日その成果の現れが実感される日々となっています。



キャンパス風景（ウッドデッキ）



5号館と講堂を望む

## 基本スキルの修得と創造・発展

本学の教育の特徴の1つに、全学部1年生の必修科目として「基礎セミナー」が開設されていることが挙げられます。学生が学部の枠を超えてグループを作り、前期は環境、後期は健康をテーマに自らが課題を設定した各種問題に実際に取り組みながら、大学において必要なアカデミックスキルを身につけています。

このスキルを使い、地域の人々と様々な共同作業を体験しながら、廃れかけていた地域の祭りを復興するなど、各種のプロジェクトを企画・展開し、学びを大学から地域社会へ広げ、目指す専門能力の修得や豊かな人間関係の形成を基盤にした独自の学問世界の発展を実現しています。

こうした成果は、多世代・多職種の様々な人々との交流を通して、「人間関係力」を育み、実社会において生きるための力を身につけられるよう、教育と学生の生活支援を融合させるというしくみから生まれたものと考えます。



基礎セミナーの中の1コマ“ごみ計量”



地域共生演習“もりさま祭”

## 学生が主役の大学へ：社会とつながる学生

学生が自ら企画・活動することを学習した結果、学生は地域社会と盛んに繋がるようになりました。環境問題とのつながりは本学が「エコアクション21（EA21）認証」を受けていることから、「EA21学生委員会」が主な活動母体となって学内はもとより、地域へ発信しています。さらに、各種ボランティア活動も活発に行われており、学内外で学生の生き生きとした顔が見られるようになりました。災害ボランティアから古民家の屋根用のかやを刈るボランティアま



高大連携事業（かんきょうフォーラム）

で、その幅は、本学の学部学科構成とうまくマッチし、展開されています。

自治会やサークル活動も活発化し、学園祭のにぎわいはもとより、地域社会での学生の存在がより確かなものになっています。バラエティに富むサークル活動は、地域の催しに招かれるなど、日頃の練習成果を地域の人々と共に分かち合い、学生も多くの喜びを実感しています。



水無月祭（大学祭）でのサークル発表

## YPU ドリームアドベンチャープロジェクト

本学では、学生が大学生活をさらに楽しく豊かにするために考えた独自の企画を公募し、活動に対して助成を行う「YPUドリームアドベンチャープロジェクト」を行っています。



“釜山からもおいでませ山口へ”調査隊

選考の結果、昨年度は7件、今年度は6件が採択されました。昨年度のプロジェクトでは、国際文化学部の学生たちによる「釜山からもおいでませ山口へ」調査隊が、韓国からの観光の実態を調査し、その結果は新聞にも取り上げられるなど、地域活性化に役立っています。

今年度も、栄養学科の学生たちによる「すきっちゃ！ユズキチプロジェクト」が地域の特産柑橘「長門ゆずきち」の利用拡大を進めています。このように学生たちの斬新なアイデアは地域からも期待されるものとなっています。

このように、山口県立大学は「存在感のある地域貢献型大学」を目指し、大学と学生が一体となって、学生の「やる気・本気」を醸成し、大学文化の発展に努めています。



すきっちゃ！ユズキチプロジェクト  
（ふるさと産業フェスタ in なごと）